



anniversary

霞が関 ビルディング

KASUMIGASEKI
BUILDING
SINCE 1968

高度成長期、ビルの建設にかつてない新しい形が求められた時代に、究極の答えとして誕生した「霞が関ビルディング」。2018年4月12日、竣工から50周年を迎えた「霞が関ビルディング」は、次の100周年に向かって歩み続ける。

Japan's first skyscraper

3つの思想

高さ147メートル・36階建ての霞が関ビルディングは、日本初の超高層ビルとして、三井不動産グループのビルディング事業に対する3つの思想を体現する。

01

大都市における人間性の回復

ビルを高層化することで生まれる地上のスペースに、緑や人々の憩いの場を確保し、「大都市における人間性の回復」の実現を目指す——壮大なテーマを掲げ、霞が関ビルディングの建設計画は始まった。結果的に、広大な敷地に約70%（約1万㎡）もの緑の広場を確保することが可能となった。いたずらに高さを競うのではなく、高さによってもたらされる美しく潤いのある都市環境を創造することをテーマとして掲げ、実現することに成功したのである。

02

“街”としての経年優化

年月が経つにつれ、古い古びていく「経年劣化」は自然の摂理。それに対して三井不動産グループは、企業思想として、建物のアップデートはもちろんのこと、時が経つにつれ地域も含めたコミュニティを成熟させ、街ごと価値を高め、より一層の向上を目指す「経年優化」という考え方を大切にしてきた。総床面積5万坪を超える広さの中に、約8,000人が働く霞が関ビルディングの誕生は、周辺の地に一つの“街”を作り、共にその価値を高めてきたといっても過言ではないだろう。

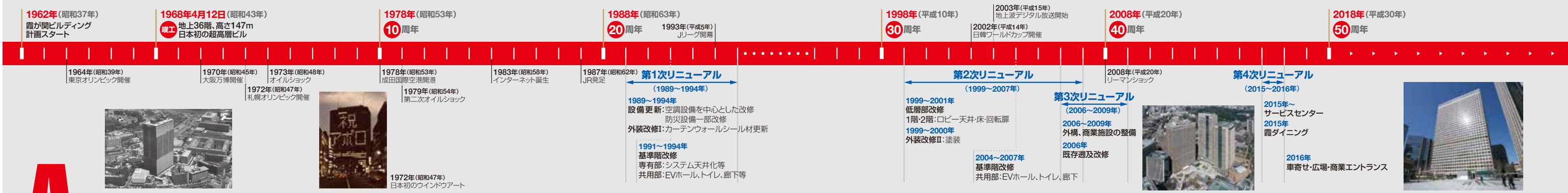
03

ミクストユースという概念

霞が関ビルディングは、計画から今に至るまで、常に人々に望まれる新しい考え方や試みを実践してきた。その一つがミクストユース（複合用途型）で、建物内に病院、郵便局などの公共施設が入り、ビル自体に街の機能を混在させる概念が初めて取り入れられた。



霞が関ビルディング50年の進化



Anniversary Event

竣工50周年記念イベント

霞が関ビルディングでは、当ビルや周辺エリアで働く人々が、オフィスライフを一層楽しむことができるよう、竣工50周年記念イベントを竣工日である4月12日から5月31日まで実施した。



モニュメント作成

霞が関ビルディングのワーカーの皆様へ、これまでの感謝と、これからのさらなる発展を祈念して、50周年記念モニュメントを制作。巨大ボードに花(造花)を挿し、霞がたなびく模様が描き出された。



デジタル掛け軸

霞が関ビルディングをキャンパスに、色彩豊かな幾何学模様を映し出す光のアート。アートテクノロジーカンパニー「PDC」がプロデュース。



KASUMI NIGHT TERRACE

「霞テラス」で、デジタル掛け軸を見ながら飲食を楽しむイベントを実施。



ビルディング本部
 法人営業一部・二部 Tel.03-3246-3234